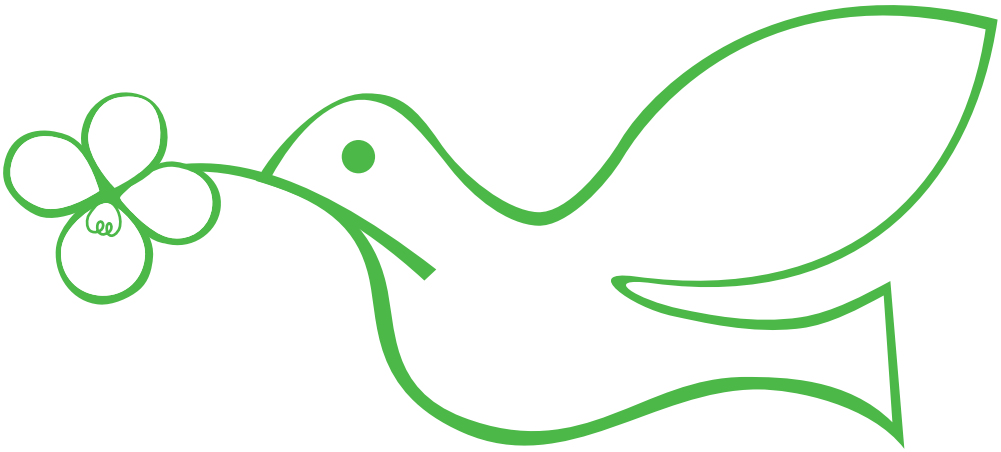
千葉大学
環境報告書
2004

ダイジェスト版

Chiba Univercity Environmental Report 2004



千葉大学
環境ISO

環境マネジメントシステムと ISO14001 認証

環境マネジメントシステムとは、事業活動による環境負荷を効果的に削減するとともに、より良い環境作りを進めるために、計画（Plan）、実施（Do）、点検（Check）、見直し（Act）という一連の経営サイクルを確立することをいいます。この環境マネジメントシステムの国際規格が ISO14001 です。

千葉大学では、2005 年 1 月 27 日に、西千葉キャンパスを対象として、ISO14001 の認証を取得しました。

千葉大学の環境マネジメントシステムの特徴

①　総合大学の特色を活かした環境教育・研究

理系と文系の学部、附属学校、構内事業者を含む総合的なキャンパスで環境 ISO を取得した国立大学法人は、千葉大学が日本で初めてとなります。

②　学生の主体的な取り組みによる環境マネジメントシステムの構築・運営

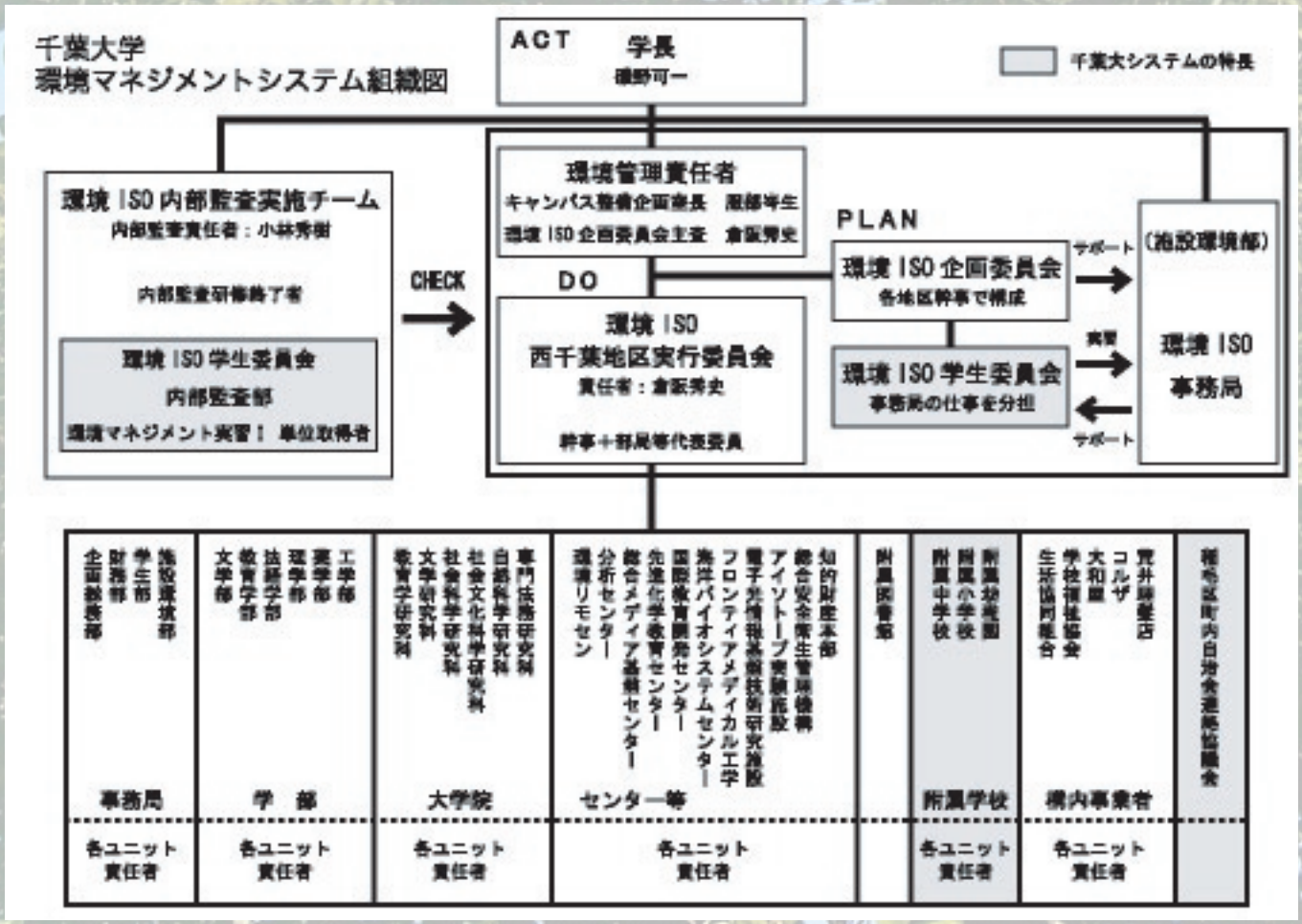
環境 ISO 事務局の業務を実習するという形で、環境 ISO 学生委員会に所属する学生が中心となって、文書原案作成、目標達成のための具体的取組や内部監査など、様々なことを行っています。

③　地域に開かれた環境マネジメントシステムの運営

地域住民代表の方に、西千葉地区 ISO 実行委員会の委員として参画していただき、地域の声を反映しながら、システムを運営しています。

④　インターネットを活用した環境マネジメント

各研究室・講義室からインターネットを通じて各研究室の状況を入力するシステム（NetFM システム）を活用して、情報を把握しました。



学生委員会について

環境 ISO 学生委員会は、千葉大学の環境マネジメントシステムに学生が主体的に参加するために 2003 年 10 月に発足しました。2004 年度からはその活動が単位化され、「環境マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ」という科目として開講されています。

学生委員会には 2005 年 1 月現在 126 名が在籍していますが、ほとんどの委員は何らかの担当に所属し、企画・立案・実行まで精力的に活動しています。

委員会に設置されている担当は、のべ 38 項目にも及びます。具体的には省エネ、節水対策といった環境保全活動も行いますが、環境方針・目的・目標の原案、環境報告書といった公的文書の作成や、内部監査、構成員研修といった千葉大独自のユニークなものもあります。このように、学生が環境マネジメントに主体的に関わっている大学は、全国的には他に例がありません。学生委員会の正会員になるには授業を履修することが条件ですが、履修せずに活動に参加する協力会員もいます。在学中に専門的な知識が学べ、実務経験を積むことができる機会を有効に活用して、積極的に活動に従事しています。詳しい内容は学生委員会のウェブサイトまでお越し下さい！

http://chiba-u-siso.xrea.jp/

学生委員会室　総合校舎 G 号館 3 階 307 号室
(内線 4034)

学生委員会集合写真

学生委員会活動風景

附属学校

千葉大学では附属幼稚園・小・中学校も含めた環境マネジメントシステムの構築をすすめています。附属小・中学校においてはそれぞれ ISO 専門部、ISO 生徒委員会を設置し、世の中の環境問題や学校の環境問題を調べたり節電用のステッカーを貼ったりといった、生徒が自主的に環境活動を行える体制をとっています。また附属幼稚園では、西千葉キャンパス構内のゴミ拾いを親・先生と共に、幼稚園児に分別を教えながら行いました。附属学校・幼稚園には学生委員会がチューターとして活動の手伝いをしています。

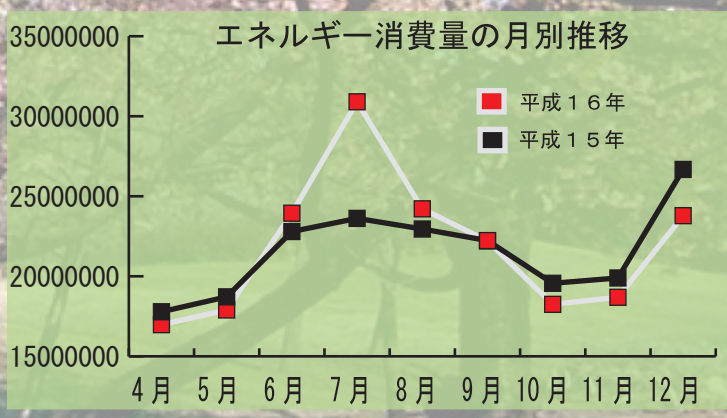
また、「附属施設を含む広大な西千葉キャンパス全体で、ISO14001 についての理解と環境活動の情報共有をもっと活性化しよう」という趣旨から、大学・附属幼稚園・小学校・中学校でどのような環境活動が行われているのかを「環境だより」として学校の先生や生徒、そしてその家庭に伝えています。

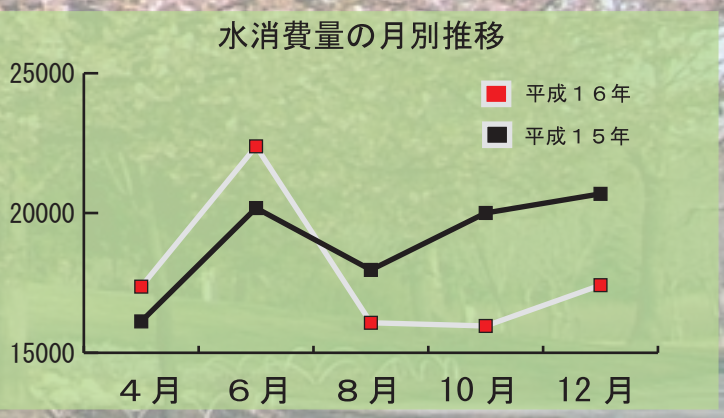
２００４年度の環境目標とその成果

No.	環境方針	環境側面	環境目的	2004年度環境目標および達成度		取り組みと成果
1	総合大学としての特長を活かした環境教育・研究	環境教育・研究	大学・大学院における環境教育・学習を推進する。	環境に関係する教育・学習機会を維持し、増加させる。	○	・今年度は環境関連科目を193科目開講 ・環境関連図書を新たに110冊購入（附属図書館）
2			大学における環境関係の研究を充実する。	環境に関連する研究を維持し、増加させる。	○	・環境に関連する研究者数は93人在籍
3			附属中学校・小学校・幼稚園と連携した環境教育プログラムを定着させる。	プログラムを開始する。	○	・学生の編集により「環境だより」を作成、附属学校に配布。 ・附属学校の取り組みに学生がチューターとして参加。
4	環境負荷の少ない緑豊かなキャンパスづくり	用紙類の使用	用紙類の使用量を今後５年間にわたり年平均で１％以上削減する。	用紙類の使用量を前年比で２％以上削減する。	○	・裏紙ボックス、リサイクルボックスを設置。 ・再使用封筒の普及に努める。
5		エネルギーの使用	エネルギー使用量を平成１５年度に比較して５年間で１０％以上削減する。	エネルギー使用量を前年比で５％以上削減する（増築・追加施設分は除外）。	▲	・省エネ呼びかけステッカーや消し忘れチェックシートなどを設置。 ・エネルギー使用量の削減率は前年比０．６％（熱量換算：増築等補正後）
6		水の使用	水の使用量を今後５年間にわたり年平均で１％以上削減する。	水の使用量を前年比で２％以上削減する。	○	・節水呼びかけポスター・ステッカーを掲示。 ・前年比で６％の減少
7		廃棄物の排出	廃棄物分別を徹底し、廃棄物の発生抑制、リユース・リサイクルの促進を図る。	ペットボトルの回収を始めるなど分別システムの見直しを行い、廃棄物の分別を徹底する。	○	・ペットボトルを分別基準に加え、分別の最低基準を設定。 ・ごみ箱設置場所を整理・再配置
8		用紙類の使用	用紙類の適切な再利用・回収を推進する。	用紙類の再利用・回収システムを定着させる。	○	・再利用・回収のため、リサイクルボックスと裏紙ボックスを各部局全印刷室に設置。
9		製品の購入	環境配慮型製品を優先的に購入する「グリーン購入」を進める	千葉大学グリーン調達方針に基づく調達を行う。	△	・グリーン購入に関する周知徹底はいまだ十分ではない。
10		化学物質の使用	化学物質の適正な管理を進める	各種法規制を１００％遵守するための体制を整える	▲	・過去に排出された水銀が原因となって水質基準を超過（９月末） ・今後３年間の化学物質の管理計画の制定の検討を予定。
11		廃水の排出	廃水の浄化を促進する	廃水の浄化のためのシステムを構築する	○	・グリストラップの定期洗浄 ・記録を保管。
12		廃棄物の排出	生ごみの処理方法を改良する	生ごみの発生量を把握し、堆肥化システムについて検討する	○	・生ゴミの発生量は15袋／１日（食堂部門） ・３つの堆肥化テストプロジェクトを試行
13		廃油の排出	廃油の発生抑制・適正処理を確保する。	廃油の発生抑制・適正処理のためのシステムを構築する。	○	・マイナスイオン利用装置により、油の劣化を防ぎ廃油を無くした。（学校福祉協会）

凡例：　○　目標を達成している項目　△　おおむね目標を達成しているが、さらに努力が必要な項目
▲　目標を達成できなかった項目

No.	環境方針	環境側面	環境目的	2004年度環境目標および達成度		取り組みと成果
14	環境負荷の少ない緑豊かなキャンパスづくり	製品の販売	グリーン購入の取り組みを促進する。	グリーン購入基準適合製品の品揃えを充実させ、その情報提供を進める。	○	・新製品の仕入れの際に基準を考慮 →適合商品割合増加 ・店舗内に「エコ文具コーナー」を設置・適合シールを貼付（生協）
15			製品包装廃棄物の削減・循環利用を促進する。	製品包装廃棄物の削減・循環利用を促進するための具体的な取り組みを進める。	○	・リリパックの利用推進 ・ボタン電池・トナー・ダンボール等の回収（生協）
16		緑の存在	落ち葉・枝の堆肥化を推進する。	落ち葉・枝の処分の現状を把握し、堆肥化システムのあり方を検討する。	○	・堆肥化テストプロジェクト試行
17			構内の緑を保存する。	西千葉キャンパス内にある樹木を、保存樹木として指定することを検討する。	○	・保存樹木の要件を満たす樹木を把握、申請に向け市と調整中。
18		放置自転車の存在	放置自転車を削減し、効果的な自転車管理体制を構築する。	放置自転車の撤去をすすめるとともに、放置自転車・キャンパス内と周辺地域への違法駐輪の削減のため、キャンパス内の自転車および交通のあり方について検討を進める。	△	・駐輪対策ワーキンググループ開催 ・再転車活用委員会による意欲的な取り組み ・放置自転車撤去は段階的に実施しているが、十分であるとはいえない。
19		喫煙	分煙環境の整備と施設利用者への周知徹底により受動喫煙を防止する。	喫煙場所を明確化し、喫煙場所以外での禁煙を呼びかける。	○	・構内喫煙場所を特定 ・分煙推進のポスター等の啓発活動
20	学生主体の環境マネジメントシステム（EMS）の構築と運用	学生主体のEMS	環境ISO学生委員会の維持・発展	学生委員会メンバーの増加	○	・126人が参加
21		学生の自主活動	学生による自主的な環境活動の促進	学生が発案する複数の自主的な環境活動プログラムを認知し、学内外への広報などによって支援する。	○	・大学祭の環境対策を支援
22	地域社会に開かれたマネジメントシステムの実施	地域社会	地域社会の主体的な参加	地域社会の意見を反映させるためのルートを整備する。	○	・西千葉地区環境ISO実行委員会に地域代表者が参加
23			地域社会への情報公開	千葉大学の環境への取り組みについて地域社会に発信する。	○	・ホームページでの情報公開 ・環境報告書の作成





千葉大学環境方針

わたしたち人類は、産業革命以来、大量の資源エネルギーを用いてその活動を発展させてきました。その結果、地球の温暖化、化学物質汚染、生物多様性の減少など、さまざまな環境問題に直面しています。まさに、人間活動からの環境への負荷によって人類の存続の基盤となる環境がおびやかされています。新しいミレニアムの初頭にあたって、これからの千年にわたり今の文明を持続させるために何をすべきか、真剣に考え、英知を結集させるべきです。
千葉大学は、理系分野と文系分野の双方の幅広い分野を含む総合的な教育・研究機関として、この英知の形成と集積と実践に寄与していく責務があります。このため、とくに次の事項を推進していきます。

1．文系と理系の知恵を集積し、また附属学校と連携し、総合大学としての特長を活かした環境教育と研究の実践を進めます。
2．省エネルギー・省資源、資源の循環利用、グリーン購入を推進し、化学物質の安全管理を徹底します。また、構内の緑を保全します。これらにより環境負荷の少ない緑豊かなキャンパスを実現します。とくに、環境に関連する法規制や千葉大学が同意する環境に関する要求事項を理解し、遵守します。
3．環境マネジメントシステムの構築と運用は学生の主体的な参加によって実施します。
また、学生による自主的な環境活動を推奨し、多様な環境プログラムが実施されるキャンパスを目指します。
4．環境マネジメントシステムを地域の意見を反映させながら、地域社会に開かれた形で実施していきます。

千葉大学では、この環境方針に基づき目標を設定し、その実現に向けて行動するとともに、行動の状況を監査して環境マネジメントシステムを見直します。これにより、継続的にシステムの改善を図り、汚染を予防します。
また、この環境方針は文書化し、千葉大学の教職員、学生、常駐する関連業者などの関係者に周知するとともに、文書やインターネットのホームページを用いて一般の人に開示します。

2005年4月1日
千葉大学学長　古在豊樹

千葉大学の今後の課題

環境に関する取組は、環境 ISO を取得したらそれで終わりというものではありません。常に継続的改善が要求されるものであり、むしろこれからがスタートです。さらなる改善のために、わたしたちに何ができるか、これからも考えて実行していく必要があります。
2005 年度中には松戸・柏キャンパスでも環境 ISO を取得できるように活動を広げていく予定です。すべての教職員・学生・関係者が、環境 ISO を取得した大学の一員としての意識を持ち、身近なところから環境を見直し、日頃の省エネ・省資源・リサイクルを心がけるところから環境にやさしいキャンパスは実現します。
環境 ISO 事務局も学内の意識統一のために、環境マネジメントシステムの周知徹底や情報公開に一層力を入れていきたいと思います。今後ともみなさんのご理解とご協力をよろしくお願いします。

千葉大学環境報告書 ダイジェスト版

発行者　千葉大学環境 ISO 事務局
編集者　赤田 啓伍（環境 ISO 学生委員会副委員長）
監修　　倉阪 秀史（環境管理責任者 法経学部助教授）
表紙デザイン　東田 理恵子（工学部デザイン工学科４年）
本文デザイン　馬上 丈司（環境 ISO 学生委員会情報管理責任者）

連絡先
〒263-8522　千葉市稲毛区弥生町 1-33
国立大学法人千葉大学
施設環境部施設企画課内　環境ＩＳＯ事務局
E-Mail：kankyo-iso@office.chiba-u.jp

次回発行予定：2006 年 7 月